

北海道大学名誉教授 鈴木 章氏への 北海道功労賞特別賞の贈呈について

1 特別賞贈呈の理由

北海道功労賞は、昭和44年の創設以来、永年にわたり本道の経済・社会・文化等の発展に貢献し、その功労が特に顕著である方を毎年表彰しており、知事が行う表彰の中で最高位のものであります。

鈴木氏のノーベル化学賞受賞は、道内初の快挙であり、世界的にも抜群の功労が認められたものであることから、これを事由とし、機をとらえて顕彰することが最も適切であるため、今回、北海道功労賞特別賞を贈呈することとしました。なお、特別賞の贈呈は初となります。

2 表彰について

(1) 北海道功労賞特別賞

受賞者 鈴木 章氏（以上 1名）

(2) 功績・表彰事由

功績「科学技術の発展と産業経済の振興」

事由「2010年ノーベル化学賞の受賞」

功績調書は別紙のとおり

(3) 贈呈品等

副賞、肖像写真（額入り）及び受賞記念バッジ

3 贈呈について

平成23年1月13日（木）午後6時30分から、京王プラザホテル札幌にて開催される北海道大学関係者によるノーベル化学賞受賞祝賀会において、知事より贈呈する。

担当：総務部人事局人事課サービスグループ 佐藤、塚田

011-204-5027(ダイヤルイン) 内線 22-156、22-184

平成22年 北海道功労賞特別賞受賞者功績概要

ふりがな 候補者氏名	すずき 鈴木 あきら 章	主要経歴	元 現 北海道大学工学部応用化学科教授 北海道大学大学院工学研究科特別招聘 教授	功 績 の 概 要
生年月日	昭和5年9月12日(80才)			【2010年ノーベル化学賞の受賞(有機合成におけるパラジウム触媒を用いたクロスカップリング)】
<p>(略歴) 昭和29年3月 北海道大学理学部化学科卒業 昭和31年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了 昭和35年3月 理学博士(北海道大学大学院理学研究科博士課程修了) 昭和34年4月 北海道大学理学部助手 昭和36年10月 北海道大学工学部合成化学工学部科助教授 昭和38年7月 米国Purdue大学博士研究員 ~昭和40年3月 (H. C. Brown教授) 昭和48年4月 北海道大学工学部応用化学科教授 昭和63年5月 英国Wales大学招聘教授 平成6年3月 北海道大学停年退官 平成6年4月 北海道大学名誉教授 平成6年4月 岡山理科大学工学部教授 ~平成7年3月 平成7年4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部教授 ~平成14年3月 平成13年3月 米国Purdue大学招聘教授 平成14年9月 台湾中央科学院及び台湾国立大学招聘教授 平成18年4月 北海道大学大学院工学研究科特別招聘教授 平成18年9月 中国科学院上海有機化学研究所名誉教授</p> <p>(その他役職等) 平成13年 アルゼンチン有機化学会名誉会員 平成17年 日本化学会名誉会員 平成17年 有機合成化学協会名誉会員 平成21年 英国化学会名誉会員</p>	<p>(表彰歴) 昭和61年 米国 Weissberger-Williams Lectureship Award 昭和62年 韓国化学会功労賞 平成元年 日本化学会賞 平成7年 米国 DowElanco Lectureship Award 平成12年 H. C. Brown Lecture Award 平成13年 The 2001 Distinguished Lecture Award 平成16年 有機合成化学特別賞 平成16年 日本学士院賞 平成17年 瑞宝中綬章 平成21年 Paul Karrer Gold Medal 平成21年 第63回北海道新聞文化賞 平成22年 アメリカ化学会 Herbert C. Brown Award 平成22年 ノーベル化学賞</p>	<p>○ 氏は、有機ホウ素化合物を用いる有機合成反応の研究をライフワークとして取り組み、世界をリードする多くの卓越した業績を挙げてきた。 中でも昭和54年に報告されたパラジウム触媒を用いる有機ホウ素化合物のクロスカップリング反応は有機合成化学のみならず、触媒化学や材料科学などの幅広い分野に多大な影響を及ぼした研究であり、「鈴木カップリング(鈴木・宮浦カップリング)」反応として広く世界的に認知される新たな研究分野を開拓した。</p> <p>○ 現在、「鈴木カップリング」を用いた炭素と炭素を結合させる反応は周知として利用されており、この技術を用いなければ得られなかった抗がん剤や抗エイズウイルス剤、血圧降下剤などの医薬品をはじめ、テレビや太陽発電に使用する液晶パネルの製造など各種の素材開発などにおいて広く活用されており、その有用性・実用性の高さから高く評価されている。</p> <p>○ こうした「炭素をつなぐ」ための新たな化学反応(クロスカップリング)、およびそのための触媒(パラジウム触媒)を開発し、これまで合成が事実上不可能だった医薬品や機能性材料などの有用物質を効率的かつ自由度高く作り出すことに成功した業績が評価されたことにより、平成22年10月6日、スウェーデン王立科学アカデミーは、2010年のノーベル化学賞を鈴木章・北海道大学名誉教授、根岸英一・米パデュー大学特別教授、リチャード・F・ヘック米デラウェア大学名誉教授ら3氏に授与することを発表した。</p> <p>○ 本道出身者初となる氏のノーベル化学賞受賞は、道民に大きな誇りと希望をもたらすとともに、本道のみならず我が国全体を大いに力づける一大偉業となるものである。</p>		